



表紙デザイン前広報委員長 田中悠生 作

令和2年度鈴鹿高専
青峰寮広報誌 青峰

ある先輩の思い出



校長 竹茂 求

高専の学生寮は、日本の高等教育機関では独特の制度だろう。以前は大学にも学生寮があったが、今は殆ど廃れていると聞く。私が大学生だった四十年以上も昔、寮に住む友人を訪ねたことがあるが、大学の寮はその頃から既にアパート化していた。

さて、中学卒業後すぐ親元を離れての寮生活は辛い事もあるだろうが、かけがえのない体験と思う。実際に「高専では寮生活が最も貴重だった」と懐かしむ卒業生の声をよく聞く。昔ながらの厳しい寮則が残る高専も少なくない中で、鈴鹿高専の青峰寮は比較的現代風に運営されているようだ。先輩と後輩が共に成長できる新しい伝統に期待している。

ところで、私自身は寮生活の経験はないが、大学入学時に下宿生活をした。八百屋の二階に十人ほどの学生がまかない付きで住んでいた。入学して少し経つと、私を含む新入生二人の歓迎会が下宿で催された。会が始まって暫くすると最上級生である四年生の一人が、新入生は出身高校の校歌を歌ったらどうか、と提案された。もう一人の新入生は元気に歌ったが、私は情けないことに歌詞もろくに覚えておらず、それを理由に歌えないことを謝罪した。その時の先輩のことを今でも鮮明に覚えている。先輩は「しょうがないな、では俺が代わりに歌ってやろう」と、先輩の母校の校歌を朗々と歌われた。私は救われた想いで、先輩への感謝の念が芽生えた。だから、暫くしてその先輩がぼそっと「今年は花見をしていないな、桜が見たい」と呟かれた時、お礼の気持ちで「近くの寺の境内に桜が咲いているので採って来ましょうか?」と言った。恥ずかしながら当時は、桜の枝を無断で折ってはいけないことに思いが至らなかった。先輩は微笑みながら「有り難う。でも、そこまでしなくていいよ」と言われた。

鈴鹿高専の校歌は素晴らしいので、覚えると良いと思います。

今年から寮務主事補になりました

教養教育科
寮務主事補 堀江太郎

とは言っても今年はコロナの影響で、教員が寮監で宿直することもなくなり、寮生の皆さんとの接点も少ないのですが、めげずに私と学寮に関するお話を2つします。

1つは10年程前になりますが、高専間教員交流制度で沼津高専に2年間行っていたことがあります。静岡の強い印象は、様々なシーンの背景に気付くと息を飲む程に美しく聳える富士の麗姿です。沼津で1年目に寮務主事補を経験したのですが、1, 2年生は全寮制です。印象は「スゴイ」の一言で、点呼や規律の厳しさ、挨拶、掃除の徹底ぶりなど全てが上をいっているのでは、とも感じました。進学でも有名な沼津高専の学生さんは総じて根性があり、毎週廊下の一角で解析の $\varepsilon - \delta$ 論法や代数のセミナーをしていたのには驚きました。

2つ目は私自身大学時代に4年間学寮で暮らしたことです。そこは青峰寮とは違った自由な自治寮で、寮の運営は学生が行っていました。年齢も人種も？様々な人々が入り出し、大学に籍がない方もいました。政治的な色合い

も残っていて、学生運動華やかな頃ではないですが、機動隊と対峙しこともあります。寮祭等も盛り上がり、酔った勢いで京都の鴨川を泳いだり、大雪の日に大文字山に登り頂上で鍋をしたり・・・今では皆懐かしい思い出です。滅茶苦茶でしたが、その経験は貴重でした。高専は大変良い教育機関だと心から思っていますが、皆さんも大学等に編入すれば世界観が広がるかも・・・は日々思っている私感です。

さて、高専における教育寮の存在は、私は高専へ赴任してから初めて知ったのですが、大変に素晴らしいシステムだと思います。毎日の生活で規則等が大変で厳しい、と感じている人もいるかもしれませんが、寮生活で培った様々な学びの経験は、将来社会で活躍される皆さんの根幹を形成する大切な核になると思います。そして寮で出会った人間関係は一生の財産になることは間違いありません。



2020年度の寮の運営に関するあれこれ

教養教育科
寮務主事補 藤野 月子

寮生の皆さんは今、この寮の広報誌をどこで読んでいるのでしょうか？もしかしたら寮の自分の部屋で読んでいるかもしれません。特に、1・2年生の皆さんは本来ならば、2～3人1部屋で寮生の仲間同士でワイワイ読んでくれたことでしょう。しかし、ご存知のように今年度はコロナによって1人1部屋になってしまいました。恐らく、気楽さ半分、寂しさ半分というところだと思います。

コロナによって今年度は皆さんが寮で生活するスタイルもこれまでとは大きく変わりました。先述の個室はもちろん、寮食もお昼はお弁当になり、テーブルもコの字型に区切られ、先生方の泊まり込みの寮監もなくなり、毎朝の検温報告が義務付けられました。また、寮の敷地内の工事も行われました（以上、下部の写真参照）。

当分は多少の変更はあれど、こうした生活スタイルが続くものと思われます。突然の変化に戸惑う方も多かったかもしれませんが、そして何より、感染拡大を起こさないためにはやはり、皆で決めたルールをしっかり守っていくことの重要さに気付かれたことでしょう。「責任」という言葉の重みも身をもって知ることになった一年間でした。

「ああ、以前、寮で皆で協力してあのコロナの大混乱を乗り越えたなあ」と笑顔で思い出話ができるその日が来るまで、あともう少し頑張ってください。宜しくお願いします。



一人暮らしと寮生活

材料工学科

寮務主事補 小俣 香織

うう…頭になんともいえない痛みを感じて目を覚ます。お腹を空かせた猫の鈴吉が自慢の爪を私の頭に何度も突き刺している。「はいはい。わかりました。」やっとの思いで体を起こし、餌をやる。まだ5時だ。今日は日曜日。もうひと眠りしよう。気が付くと既に9時を過ぎている。枕元の鈴吉を起こさないように、そっと起き上がり水を飲む。体が重い。とりあえずテレビをつける。洗濯機を2回まわす。作業着は楽だけれど、洗濯のときにかさばる。最近はずっと乾燥しているので部屋干し。昨日残しておいた菓子パンを焼く。コーヒー…は面倒だからやめておこう。白と黒の毛がたくさん落ちている。掃除機をかけなくては。明日は燃えるゴミの日だったか。シャワーを浴びる。そろそろシャンプーがなくなりそうだ。バスタオルもそろそろ取り換え時かな、と思い始めてからすでに3カ月は経っている…良くある休日の一コマ。

実家を出て一人暮らしをはじめてから15年程になる。好きなときに好きなことができるという気楽さがあるが、ただ好きなことをしているだけでは生活の質を保つことができない。食事を用意



する、掃除する、洗濯する、決まった日にゴミ出しする…些細なことも全て自分で行わなければならない。いくら疲れていても、これをしないと生活が破綻する。鈴鹿高専での寮生活はどうだろう。毎日決まった時間に食事が用意され、お風呂に入れる。洗濯や掃除に必要な道具もそろっていて、壊れたら誰かが取り替えてくれる。「食事が揚げ物ばかりで辛い」、「朝食のパンはたくさん種類を用意してほしい」、「門限を伸ばしてほしい」、「シャワーだけでなくお風呂につかりたい」…。今年から寮務主事補になり、寮生からの声を良く耳にする。要望を出せば、寮のスタッフが皆さんの快適な生活のために力を尽くしてくれるだろう。しかし今の生活が、沢山の方々の労働や思いやりの上に成り立っていることを決して忘れてはならない。

学生生活が充実するようにサポートします

材料工学科
准教授 黒飛 紀美

令和2年度4月から本校に赴任しました黒飛紀美(くろとびきみ)と申します。割と普通に読んでくれると読み方、合っています。皆さんの知るように、着任早々から新型コロナウイルスの流行に伴っての遠隔授業が始まりました。そのため前期は学生さんの顔もわからず、校舎は閑散としていて、高専に赴任して初めて行う遠隔授業は教えている実感の全くない何とも味気のないものでした。赴任前の夏に、たまたまある番組で本校のウォーターボーイズが取り上げられていました。部長が変わって新しいメンバーでの部活始動はまずスピーカーを作る、しかも、お鍋のような家財道具を利用して溶接する、へえ～面白そうな部活だなあ。そこに出てくる学生は飛びぬけて明るかったので、それを思い出して私もがんばろうと自分を奮い立たせながら授業の予習を行っていました。

現在は、対面授業に戻り、マスクをつけての普段が取り戻されつつあります。しかし、寮生活に関しては、今でもコロナ対策がしっかりと採られています。寮のリビングの使用が制限されていますし、寮に帰っても誰とも話をして

いない状況かも知れませんね。コロナ渦でなければ、否応なしに誰かいて、ちょっと煩わしい日常を過ごしているはずではないですか？無くなるとそのありがたさがよく解ります。さらに部活でも大会が縮小されたり中止になったりと、学生さんにとっても辛い1年だったかと思えます。私もみなさんの状況とは比べようもなく些細な問題なのですが、前期の人と話さない生活が寂しくて猫を飼ってしまいました。朝は4時に起こされて、授業の予習をしていると邪魔をされ、気づくと本がかじられている…。いまは猫のいる生活はとても大変と感じてしまいますが、それでも救われていると思っています。みなさんも、不便な生活をどうしたら楽しくなるだろうと考え、どんどん提案して生活を変えていってほしいです。みなさんの学生生活が充実しますようサポートしていきたいと思っています。早く本当の意味での普段が戻りますように。



思い出の共有を図ってほしい

教養教育科
講師 笹岡伸矢

2020年4月に赴任しました、笹岡伸矢です。2年生の政治・経済、4年生の技術者倫理入門と技術経営Ⅰ・Ⅱ、5年生の経済学Ⅰ・Ⅱを受け持っています。専門は政治学で、民主化という事象に関心があり、ソ連・ロシアの変動を分析してきました。近年では、日本をはじめとする女性参政権問題を研究対象としています。私は寮生活を送ったことが一度だけあり、大学院生だった

2003年の9月～12月のあいだロシアに留学した時に経験しました。慣れない寮生活で、最初は日本人同士で仲良くなりましたが、その後交友の輪が広がり、中国・韓国・台湾のアジアの人たちは文化的に近く親しみやすかったですし、英米の人たちの奔放さに驚きましたし、人づてにロシア人とも交流できたのはよい思い出です。本校の寮では留学生も生活しています。コロナ禍ではありますが、寮生同士、積極的な交流をぜひとも進めて、思い出の共有を図ってほしいと思います。

着任のご挨拶

材料工学科
助教 河合里紗

本年度から材料工学科に着いたしました河合里紗と申します。私は大学入学から9年間奈良で一人暮らしをしていました。大学にも寮があったのですが、入寮の倍率が化学科の入試倍率と同じくらいで、私は入ることができませんでした。私の下宿は寮に似た雰囲気があり、毎年新生に向けて入居のビラ配りをしたり、夜語り合ったり、お寺巡りをしたり、天体観測したり…違う学科の友達とも関わることでできて楽しかったです。研究室に配属されてからは、研究漬けになりました。家

が大学から近かったため深夜に出歩くことが日常になってしまい、実家では考えられないような生活を送っていましたが、昼夜ともに研究を頑張った仲間がお互い刺激になりました。

新しい環境に身を置くことは不安もありますが、その分いろいろな人と関わったり、新しい自分を発掘することができます。是非、寮生活を通じて今しかできない経験をしながら、充実した学生生活を送ってください。

寮生活を満喫

第2青峰寮 寮長 土田 依吹

はじめまして。この文章って誰か読む人がいるのだろうか、と疑問を抱きながら気軽な気持ちで一筆したためている生物応用化学科5年、土田依吹です。

私は愛知県出身なのでこの鈴鹿高専に入学が決まった時点で寮に入ることには確定しました。中学卒業後、親元を離れての暮らしには多少の不安を覚えながらも5年間の高専生活、そして寮生活をスタートさせたのでした。そしてやっとのことで5年生になり卒業(予定)を目前に控えた今、こうしてこれまでの寮生活を振り返ってみるとなかなか充実した時間を過ごしたな、と感じます。

まず、友人がたくさんできました。特に、通生として過ごしていれば関わることが少ないであろう他学科の友人を多く作れたことは寮生の特権なのかな、と思います。そして、思い出もたくさんできました。結局のところ、友人との寮での食事や入浴、他愛もない話、地獄のようなテスト期間を共に過ごした時間、といった日常がかけがえない時間だったのだな～と感じます。

正直なところ門限や規則があったりと制約があった部分は通生を羨むところではありましたが、なんだかんだで5年間の寮生活を満喫した感はあります。まだまだ書こうと思えば書けますが、この辺にしておこうと思います。最後まで読んでくださりありがとうございました。



友人に祝ってもらった16歳の誕生日

コロナ渦の中で

第1青峰寮 寮長 大葉 美月

コロナ渦において集団生活をする寮では細心の注意を払わなければならず、ここ最近の寮生活においては“集団で生活をするからこそその楽しさ”を感じる事が少なくなってしまった人も多いかもしれません。けれど現在、感染者を出さず、普通に暮らせているのは私たちが遠隔授業を行っている頃から寮務主事を中心とする先生方が1からコロナ対策について考えてくださっていたからです。3、4年生の寮役員と先生方で定期的に行う会議では、実際にコロナ対策をした寮で暮らしてみた学生の意見を出し合う場も設けていただき、できる範囲でみんなが暮らしやすくなるよう何度も改善を行ってきました。例えば料理をすることのできる談話室の利用についてですが、遠隔授業終了直後は密集を避けるため一切調理をすることができませんでした。しかし現在はコンロの利用者数を半分に減らし、調理したものは自室で食べるという条件で自由に料理をすることができます。まだ以前のように複数人で料理を作ってみんなで食べて…ということはいませんが今は少し我慢です。

また、1、2年生にとっても特に大変な半年だったと思います。例年では1、

2年生がペアで同室となり同じ部屋の先輩から寮や学校について様々なことを教えてもらいます。しかし今年は全室1人部屋となってしまったので1年生は不安な事も多かったでしょう。対策として近くの部屋同士の1、2年生でペアを作ることとし、寮について教えてもらうことにしました。同じ部屋ではないのでどうしても会話数が減ってしまうことや、コロナ対策の新しいルールなどもある中で2年生はしっかりと伝えてくれていてとても助かりました。1人部屋になることで先輩後輩のつながりが無くなってしまうことが1番不安だったので、その姿を見たときは少しほっとしました。

いつコロナ渦が収束するか分からないですが、いつか以前と同じように寮生活ができることを願っています。



寮生活について

第4青峰寮 寮長 伊藤真一郎

4寮寮長の伊藤真一郎です。とはいえ前期はオンライン授業で寮も空いてなかったのが半年間しか実際は働いておらずこんなんで良かったのかなと思いつつ任期の終わりを迎えようとしています。本来なら1~3年生が4寮に入るのもその学年の指導をするはずで楽しみにしてたんですが部屋の関係で4寮には3~5年が入ることになりました。慣れ親しんだ同学年がいるのは良かったです。新入生と話したかったなという気持ちもあり少し残念です。

ここまで今年度のことについて書きましたが今年度は特殊な環境だったのでいつもの寮生活の事について書きます。1~3年生は本来なら各学年1人ずつからなる3人部屋で生活します。最初は親元を離れて1人で生活することに不安を覚えるかもしれないですが友達もすぐできるのですぐに慣れると思います。同じ学科以外の友達ができるのは寮生の大きな利点だと思います。他学科とは部活の時や合同授業の時ぐらいしか一緒にならないしクラス替えもないのでなかなか関わらないですが寮では学科などは関係なく交流があります。

他にもいろいろ寮のいいところがありますが挙げるときりがないので自分が思う1番寮に入って良かったことだけ最後に書きます。学校に近いことです。朝の8時半まで寝てても遅刻しないし、部活でお腹が空いてもすぐに寮食で晩御飯が食べれるという夢のような場所が寮なんです。

テスト期間で勉強に追われる中書いたので拙い文でしたが寮の魅力が少しでも伝わったら嬉しいです。



寮生活は楽しい

青峰寮A 寮長 宮崎 優

今年度はコロナウイルスの影響で例年とは違った寮生活になりました。

特に私は、今年度は昨年度にフロアリーダーになることが出来なかったことから指導寮生になることはできないだろうと思っていましたが、A寮は一人一部屋だったので変わりませんが、4寮などは一部屋に2～3人が入るところを1人で入ることになったので、必然的に寮に入ることが出来る人数が減ってしまい、再度、指導寮生の募集がかけられたことで指導寮生としてさらに言えばA寮の寮長として仕事をすることが出来るようになったという私にとっては驚きから始まった寮生活でした。

そして、他にもいろいろなところがコロナウイルスの影響で変わってしまいました。例えば、今年は前期の間は自宅でのオンラインでの授業だったので寮に入るのが前期の終盤だったことや「3密」を避けるために毎年度7月と12月に行っていた寮祭が中止になってしまったことです。これについては毎年楽しみにしていたので開催できないとわかった時にはとても残念だと思いました。そして、行事ごとではありませんが人と人との接触をなるべく少なくする

ために自分以外の部屋に行くのも我慢しなくてはいけなくなってしまったことで、友達の部屋に遊びに行くことやテスト勉強で分からないところを直接聞きに行くことが出来なくなったことが地味に嫌だったなと思いました。

ですが、やはり寮生活は自宅待機の期間があった分だけ良いものだと思うようになりました。なぜそう思えるようになったかということ、自分は寮にいるほうが自宅にいる時よりも勉強に身が入ることがわかったからです。それに、部屋に行くことが出来なくなったとしても食事や風呂の時間は仲の良い友達と一緒に行動することが出来るからです。これは、自宅待機の間の友達との交流が電話だけだったことと比べると、直接会って会話するのはやはり違うなと思ったからです。

こんな感じで例年とは違う感じの1年となりましたがやはり寮生活はとても楽しいのもだと再確認できる1年でした。

